

本文

一年（ひととせ）、入道殿の大堰川に逍遙せさせ給ひし〔①〕に、作文の舟・管絃の舟・和歌の舟と分たせ給ひ〔②〕て、その道にたへたる〔③〕人々を乗せさせ給ひしに、この大納言の参り給へる〔④〕を、入道殿、「かの大納言、いづれの舟にか乗らるべき〔⑤〕」とのたまはす〔⑥〕れば、「和歌の舟に乗り侍らむ〔⑦〕」とのたまひて、よみ給へるぞかし〔⑧〕、

小倉山 嵐の風の 寒ければ 紅葉の錦 着ぬ人ぞなき

申し受け給へるかひありてあそばしたりな〔⑨〕。御みづからものたまふなるは、「作文のにぞ乗るべかりける〔⑩〕。さてかばかりの詩を作りたらましかば、名の上がらむこともまさりなまし〔⑪〕。口惜しかりける〔⑫〕わづかな。さても、殿のおほせられしに、われながら心おごりせられし〔⑬〕」とのたまふなる。

一事のすぐるるだに〔⑭〕あるに、かくいづれの道も抜け出で給ひけむは、いにしへも侍らぬことなり。

設問

1. 現代語訳

- 傍線部〔①〕「逍遙せさせ給ひし」を現代語訳しなさい。
- 傍線部〔⑤〕「いづれの舟にか乗らるべき」を現代語訳しなさい。
- 傍線部〔⑪〕「かばかりの詩を作りたらましかば、名の上がらむこともまさりなまし」を、表現上の特徴がわかるように現代語訳しなさい。
- 傍線部〔⑭〕「一事のすぐるるだにあるに」を現代語訳しなさい。

2. 文法・敬語

- 傍線部〔①〕「逍遙せさせ給ひし」の「させ給ひ」について、敬語の種類と、だれに対する敬意かを答えなさい。
- 傍線部〔⑤〕「乗らるべき」の「る（らる）」の文法的意味を答えなさい。
- 傍線部〔⑥〕「のたまはす」は、だれのだれに対する、何という種類の敬語か答えなさい。
- 傍線部〔⑦〕「乗り侍らむ」の「侍ら」の敬語の種類と、だれに対する敬意かを答えなさい。
- 傍線部〔⑪〕「ましかば…まし」が表す表現法の名称を答えなさい。
- 傍線部〔⑭〕「だに」の意味（用法）を答えなさい。

3. 語句

11. 傍線部〔③〕「たへたる」の意味を答えなさい。
12. 傍線部〔⑫〕「口惜しかりける」の「口惜し」の意味を答えなさい。

4. 内容理解

13. この場面に出てくる「三つの舟（作文の舟・管絃の舟・和歌の舟）」は、それぞれどのような才能の道を表すか答えなさい。
14. 「この大納言」が後になって「作文のにぞ乗るべかりける（傍線部〔⑩〕）」と後悔したのはなぜか。当時の漢詩と和歌の評価のちがいにふれて説明しなさい。

5. 文学史

15. この文章の出典である『大鏡』について、(1)成立した時代、(2)叙述（語り）の形式、(3)「四鏡」のうち何番目に成立したか、の三点を答えなさい。